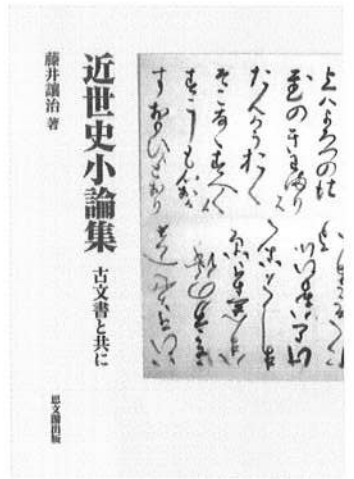


近世史小論集

— 古文書と共に —

A5判・464頁・定価 6,300円 (税5%込) ISBN978-4-7842-1621-5

本書は、日本近世政治史研究の泰斗である著者が、研究をはじめたころからごく近年にいたる間に書いた小論のうち、あまり目にとまらないところに収められたもの、入手の困難なものの中で著者の主要な研究の前提、あるいはその後の展開にかかわる論考を集めた。2012年3月に京都大学を退職するにあたり、約40年におよぶ研究の軌跡を振り返る。



◎内容目次◎

I 戦国の若狭

若狭国一國徳政の一史料／戦国時代の加地子得分／大阪青山短期大学所蔵「梶又左衛門宛織田氏宿老連署状」をめぐって

II 秀吉の時代

耳塚と秀吉—侵略戦争の象徴として／天正二年五月二十日付羽柴秀吉書状をめぐって／根来衆の軍事力について—岩室坊を中心に／暮松新九郎書状をめぐって／十六世紀末における日本人の地理認識の転換／慶長三年の越前国太閤検地関係史料

III 家康・秀忠・家光

住友家所蔵の田中清六関係文書／「源家康」の印章／慶長十一年の

キリシタン禁制の一史料／慶長期武家官位に関する四つの「寄書」／黒田長政筑前押領の経緯／徳川秀忠／八月二日付徳川秀忠仮名消息をめぐって／徳川家光の花押／立花文書のなかの家光発給文書／江戸幕府前期の「御用」について／“郷帳”覚書／日本近世社会における官僚と軍隊

IV 京都と所司代・町奉行

幕府法令の伝達と都市／徳川政権成立期の京都所司代／板倉勝重と重宗／京都町奉行の成立過程／十七世紀京都の武士

V 大名と領知

若狭国三方郡人口史料の紹介と考察—「宗門御改書出」／「おり米」

と寛永十九年の騒動／近世大名支藩の成立とその支配／地味札考／遺領分知における大名意志—酒井忠直の場合／近世前期の大名と侍講／利常・光高の居所をめぐって／大名の江戸城登城と家光の病／大老酒井忠勝と將軍徳川家光

VI 安定期社会を考える

京都の町触にあらわれる子供と老人—捨子触・迷子触・尋人触を素材に／一下級武士の日常—尾張藩士朝日文左衛門を素材に／非日常からみた日常の武家社会—「年中行事」と「忌」／歴史のなかの揺らぎと戻り—江戸幕府の側用人をとおして

著書・論文等一覧／索引

ふじい じょうじ… 1947年、福井県生まれ。1975年、京都大学大学院文学研究科博士課程単位取得退学、京都大学文学部助手。1977年、神戸大学文学部助教授。1983年、京都大学人文科学研究所助教授。1994年、京都大学文学部助教授、その後、同教授、大学院文学研究科教授。2012年、京都大学を退職。

【主要著書】『江戸幕府老中制形成過程の研究』（校倉書房、1990年）『幕藩領主の権力構造』（岩波書店、2002年）『徳川將軍家領知宛行制の研究』（思文閣出版、2008年）『織豊期主要人物居所集成』（編著、思文閣出版、2011年）

思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355 tel. 075-751-1781 fax. 075-752-0723
http://www.shibunkaku.co.jp E-mail: pub@shibunkaku.co.jp

注文票		発行：思文閣出版		(京都 取引コード 3402)	
冊数	冊	近世史小論集	本体6,000円(税別)	ISBN978-4-7842-1621-5	
お名前		tel			
		e-mail			
ご住所	〒				
送本方法	<input type="checkbox"/> 書店経由 (このちらしを書店にお渡し下さい) <input type="checkbox"/> 代引 (書籍代+送料を現品と引き替えにお支払い下さい)				
					書店番線印

織豊期主要人物居所集成

藤井讓治編

織豊期を生きた政治的主要人物(有力大名、僧侶・文化人、公家など)総勢25名の移りゆく居所の情報を編年でもとめた研究者・歴史愛好家必携の書!! 辞書的な利用はもちろん、通覧すれば秀吉の天下統一の道程や戦国武将の動静、同時代人たちの交流を詳細に追える。

▶B5判・476頁/定価7,140円

ISBN978-4-7842-1579-9

徳川将軍家領知宛行制の研究

藤井讓治著

思文閣史学叢書

近世社会、特に領主社会での徳川将軍家と大名との関係を成立させる領知制。本書はその領知制を基礎のところで成立させている領知朱印状そのものに注目し、徳川将軍家の領知宛行制の形成過程とその特質を明らかにする。各章末に領知朱印状の一覧を付す。

▶A5判・412頁/定価7,875円

ISBN978-4-7842-1431-0

近世社会と知行制

J.F.モリス・白川部達夫・高野信治編

近世の領主的土地所有論の中で自明の前提であるかのように理解されてしまったがために、十分議論されなかった問題を、既成の論理枠組みにとられず明らかにし、実証的に深めることで、従来の近世の領主的土地所有像を問い直すことを試みる。

▶A5判・372頁/定価8,190円

ISBN4-7842-1005-9

関ヶ原合戦と近世の国制

笠谷和比古著

徳川時代270年の端緒となった関ヶ原合戦が内包していた諸問題の再検証と合戦後の領地配分にみられる支配の実態、将軍制をめぐる思惑と確執、家康と秀頼の関係などを通して豊臣と徳川の「二重公儀体制」の実態を明かし、徳川家康の政権構想と近世天皇制との関係を論じる。

▶A5判・280頁/定価6,090円

ISBN4-7842-1067-9

旗本知行所の研究

川村優著

思文閣史学叢書

幕藩制究明の上からきわめて重要な位置を占める旗本知行所の実態と性格をさぐる論考10篇を収める。関東旗本知行所における村落知行と当該農民の対応を軸にすえた具体的事例を検出、さらに、それに基づき旗本知行所を幕藩制全体の中に位置づける。従来の旗本窮乏一元論・旗本崩壊不可避論を乗り越える構造的研究をめざした意欲作。

▶A5判・528頁/定価10,290円

ISBN4-7842-0532-2

※近世社会と百姓成立 構造論的研究

渡邊忠司著

佛教大学研究叢書 1

近世社会において零細な高持百姓はいかにして自らの生活や農耕の日常を凌いでいたのか、経営の自立と再生産を可能としていた「条件」は何であったのか。近世社会における「百姓成立」について領主権力による「成立」の構造を再検証し、百姓の観点から百姓自らが創出した「成立」の条件と構造を年貢負担と村内の組織編成、質入の検討により解明。

▶A5判・310頁/定価6,825円

ISBN978-4-7842-1340-5

畿内の豪農経営と地域社会

渡辺尚志編

18世紀末以降、河内国丹南郡岡村(現藤井寺市)の庄屋を世襲した豪農・地方名望家が岡田家であり、近世・近代において同家が作成・授受した「岡田家文書」は1万数千点にもおよぶ。近年整理が進められている岡田家文書を多角的に分析し、畿内における村落と豪農の特質を経済・社会構造の観点から解明する。

▶A5判・508頁/定価8,190円

ISBN978-4-7842-1385-6

熊本藩の地域社会と行政 近代社会形成の起点

吉村豊雄・三澤純・稲葉継陽編

永青文庫細川家文書に大量に残された地方行政記録綴「覚帳」や、村役人層をはじめとする住民の評価・褒賞記録綴「町在」の系統的分析を行うことで、19世紀段階の近世行政システムの全容を解明し、さらにそれらが近代社会の成立や地域の近代化にとって、どのような前提条件を提供することになったのかを明らかにする。

▶A5判・420頁/定価9,450円

ISBN978-4-7842-1458-7

※中世・近世の村と地域社会

西村幸信著

大和を中心とした中世・近世の村落構造に関する諸論考を集成。第一部には、村落中間層のあり方に注目し、学界で支配的な「自力の村」論に真っ向から異論を唱えたものなど主要論文を収め、第二部では、松波勘十郎と郡山藩領についての新発見など『広陵町史』近世篇に結実した業績を収める。2006年6月若くして逝去した著者の遺稿集。

▶A5判・404頁/定価6,510円

ISBN978-4-7842-1353-5

相国寺蔵 西笑和尚文案 自慶長二年至慶長十二年

伊藤真昭・上田純一・原田正俊・秋宗康子編

豊臣秀吉・徳川家康のプレーンとして寺社政策・外交政策に辣腕を発揮した相国寺中興の祖・西笑承兌の発給した書状の案文をまとめた『西笑和尚文案』全10冊を紙背文書も含め初めて活字化。朝鮮出兵に関する内容や、関ヶ原合戦直後の状況、家康政権下の寺社公事など、当時の政治状況をうかがうことの出来る重要史料。

▶A5判・口絵4頁 本文392頁/定価7,350円 ISBN978-4-7842-1343-6

※幕藩権力と寺院・門跡

杉田善雄著

思文閣史学叢書

宗派・教団単位に考察されてきた従来の研究に対し、中世寺社勢力の中心であった顕密系寺院の近世的あり方を分析することによって、江戸幕府の寺院行政の展開をより明瞭に解明。さらに、旧寺社権門の頂点に位置した門跡を分析対象とし、近世における門跡制の特質を明らかにする。

▶A5判・320頁/定価7,560円

ISBN4-7842-1166-7

一八世紀日本の文化状況と国際環境

笠谷和比古編

日本の18世紀の文化的状況はいかに形成され、それらは東アジア世界、また西洋世界までふくめたグローバルな環境下で、いかに影響を受けつつ独自の展開を示したか。多角的にアプローチした国際日本文化研究センターでの共同研究の成果23篇。

▶A5判・582頁/定価8,925円

ISBN978-4-7842-1580-5

近世長崎司法制度の研究

安高啓明著

江戸時代における長崎奉行所で構築されていた司法制度のもとでの、長崎奉行の司法的権限に迫った一書。また法の浸透過程と受容した長崎奉行所の法体系を見出し、判例集「犯科帳」から当時犯罪に関与した人間模様、裁判の実相を明らかにする。

▶A5判・504頁/定価5,985円

ISBN978-4-7842-1477-8

「封建」・「郡県」再考 東アジア社会体制論の深層

張翔・園田英弘編

東アジアの社会体制(あるいは統治機構)を表す「封建」と「郡県」という伝統的大概念を多角的に検討し、その論理的枠組や時代的要請による理論的発展の構造を解明しようとする13篇。

【内容】封建・郡県概念の普遍化の試み/中国における封建・郡県論/日本における封建・郡県論など

▶A5判・412頁/定価6,825円

ISBN4-7842-1310-4

近世京都の都市と民衆

鎌田道隆著

思文閣史学叢書

著者が京都市史編纂所時代におこなった京都市内全域の旧家・会所・小社寺などの民間史料調査をもとに、戦国から幕末維新までの京都都市論を展開

【内容】近世統一権力と民衆/近世都市と市民生活/政治・都市・市民など

▶A5判・808頁/定価8,190円

ISBN4-7842-1034-2

※京都の都市共同体と権力

仁木宏著

思文閣史学叢書

中世京都の都市構造モデルを前提に、その変容のなかから町(ちょう)の成立を読み解く。自力救済社会における武家と都市民の対峙が、やがて公儀を創出し、都市共同体を確立させることを明らかにする。中近世移行期における自治、共同体、権力の葛藤を正面から見すえ、都市の本質を具体的に、理論的に分析した一書。

▶A5判・332頁/定価6,615円

ISBN978-4-7842-1518-8

インタビュー・エッセイや新刊情報を掲載した広報誌『鴨東通信』を年4回無料でお送りしています。電話・fax・Eメールでお申し込み下さい。※印の書籍は外函・カバーに汚れ・傷みがございます。